

聖霊の助けによる祈りとは・何を祈るか

□学びの目的

「天にいます私たちの父よ」という呼びかけで始まる「主の祈り」(マタイ6章)は、主イエス・キリストが教えてくださった祈りのパターンであり、祈りの対象は、父なる神であることは、よく知られています。

しかし、「イエス様」という呼びかけで祈る人、三位一体の神のそれぞれの位格をお呼びして「父なる神様、イエス様、聖霊様」と祈る人、さらには、とくに聖霊の満たしを求めるときなどに「聖霊様」と祈る人など、さまざまです。

そこで、祈りについて、次の4つのテーマに分けて聖書から学びます。

第1・・・「誰に対して祈ればよいのでしょうか」

第2・・・「主イエス・キリストの御名による祈りとは」

第3・・・「聖霊の助けによる祈りとは」

第4・・・「何を祈るか」

□第1のテーマでの結論

「父なる神に祈る」というのが、聖書の教えです。イエス様は明確に父に祈るように教え、その教えを受けた使徒たちも、明確に父なる神に祈っています。

□第2のテーマでの結論

「主イエス・キリストの名によって」祈ることには、次の3つの意味があります。

1. イエスへの愛と信仰の表明です。

この愛と信仰を父なる神は大変喜ばれ、私たちの祈りに答えてくださいます。信仰の内容は次の2点です。

(1) イエスを神から出て来た者と信じます

(2) 神がイエスを死者の中からよみがえらせたことを信じます

2. 大祭司なるイエスを通して神に祈るということです。

(1) イエスは私たちのために神の御前でとりなしをしてくださる大祭司です。

(2) 私たちは試みに弱く、失敗しやすい者ですが、イエスは私たちの弱さをよくわかってくださいます。

(3) イエスが代わって祈るのは、違います。私たちは、イエスがとりなしてくださるから、大胆に神に近づくことができるのです。

3. 祝福を受け取るようにと神が定めた通り道です。

神は、イエス・キリストにあつて天の霊的祝福を与えてくださいます。霊的祝福とは、聖霊を受けることによって受け取ることでできる祝福とも言えます。次の4つです。

(1) 神の子となるように選ばれた

(2) 罪の赦しを受けている

(3) 一つに集められる

(4) 御国を受け継ぐ

□第3のテーマ・・・「聖霊の助けによる祈りとは」

1. 聖霊とはどういうお方でしょうか

- (1) ヨハネ 14:16 聖霊は、信者にとっては、「もうひとりの助け主」と呼ばれます。
- ① イエスが一人目の助け主です。
 - ② 聖霊は、信者にとって、イエスと同じようなもうひとりの助け主です。
 - ③ イエスが天に昇っても、信者はひとり残されることはありません。聖霊がわたしたち一人ひとりの中に住んでくださって、助けてくださいます。
 - ④ 聖霊は、私たちの弱さや苦しみを知っておられ、同情してくださり、慰め、力づけてくださるお方です。
 - ⑤ ヨハネ 14:26 聖霊は、使徒たちにすべてのことを教え、イエスが使徒たちに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます
- (2) ヨハネ 14:17 聖霊は、この世に対しては、「真理の御霊」と呼ばれます。
- ① 世は、聖霊を受け入れることができません。聖霊を見もせず、知りもしないからです。
 - ② ヨハネ 15:26 聖霊は、イエスについてあかしします。
 - ③ ヨハネ 15:27 使徒たちもあかしします。初めからイエスといっしょにいたからです。
 - ④ 聖霊は、世に対して、次の表にあるように 3 つの項目について、誤りを認めさせます (ヨハネ 16:8~11)。

| 項目 | この世の理解 (誤り) | 真実 (真理) |
|-----|---|--|
| 罪 | 罪とは、モーセの律法に違反すること、あるいは道徳律や法律に背くことである。 | 罪とは、イエスを信じないことである。そのほかのすべての罪は十字架においてイエスが負った。そのことを信じなければ、その人は神を偽り者とするのである。 |
| 義 | イエスは義人でない。悪霊に憑かれた魔術師であり、十字架にかかって呪われた死を遂げた男である。 | イエスが死から復活し、天に昇って神の右の座についたということは、イエスが義人であったことを神が証明したことである。 |
| さばき | 十字架処刑は、イエスが神から呪われ、神に打たれたことの証拠だ。つまり、イエスは神によって裁かれたのである。 | イエスは誰によって殺されたわけではない。十字架に至るまで神に従順を通し、自らのちを捨てた。その死によって、死の力を持つ者=サタン、すなわち「この世を支配する者」を無力化した。つまり、神はサタンを裁かれたのである。 |

- ⑤ ヨハネ 16:13 聖霊は、誤りを認めさせた人をさらに導いて、「真理=神のみことば=イエス・キリストの中に導き入れる」という段階に進ませます。こ

の段階では、信者になっていますから、「世」ではなく、「あなたがた（＝イエスの弟子たち）」を、となります。

- ⑥ ヨハネ 17:15 聖霊は、信者をこの世から取り去るのではなく、悪い者（＝サタン）から守ります。
- ⑦ ヨハネ 17:16～17 聖霊は、信者を「この世」から聖別します。この世にしながら、この世の者ではない生き方をさせます。その原動力となるのは、「真理＝神のみことば＝イエス・キリスト」です。

2. 「助け主」は、「救い主」とは違います。

(1) 「助け主」の原語の意味は、「慰める者」です。

- ① 原語自体には「主」や「神」の意味はありません。
- ② 旧約聖書で人に使われる場合は、葬儀のときに弔問して遺族を慰める人や病氣の人を見舞う人を指します。
 - IIサム 10:3、詩 69:20

(2) 「救い主」の原語の意味は、「救助者」です。

- ① 原語自体には「主」や「神」の意味はありません。
 - ルカ 2:11、士師 3:9

(3) 人の救いという文脈では、順番から言うと、まず、「救い主」が登場します。救い主とは、信者を生み出すお方です。人を、罪人の立場から信者の立場に移す働きをしてくださいます。次に、「助け主」の登場です。先に述べたように、助け主とは、信者を慰める者です。

3. 救い主は、父なる神と子なる神です。

(1) 父なる神は、人を救うというみこころを発し、そのための計画をお立てになりました。救いのみわざにおける、**本源的な救い主**です。

(2) 子なる神、主イエス・キリストは、父のみこころを受けて、その通りに実行しました。救いのみわざにおける、**実行者としての救い主**です。

(3) この関係は、旧約聖書においても示されています。

- ① イザヤ 45:15
- ② イザヤ 63:9

(4) 新約聖書でも、救い主に関するこの関係が見られます。

- ① 使徒 5:31
- ② 使徒 13:23
- ③ Iテモテ 1:1
- ④ Iテモテ 2:3
- ⑤ IIテモテ 1:10
- ⑥ ピリピ 3:20

4. 助け主は、子なる神と聖霊なる神です。

(1) 助け主は、先に述べたように、「慰める者」です。信者が自分の弱さや苦しみの中にあるときに慰めてくださるお方です。

- IIコリ 1:4、7:6 慰めの本源は父なる神

(2) 一人目の助け主は、子なる神、主イエス・キリストです。

- ① イエスは、天に昇ったあと、神の右の座に着かれました。
- ② しかし、ただ座っておられるのではなく、「大祭司」として私たちに助けてく

ださっています（ヘブル4：15～16）。

- (3) もうひとりの助け主が、聖霊なる神です。聖霊は私たち一人ひとりの中に住んでくださっていて、私たちの祈りを導いてくださいます。

5. 聖霊の助けによって祈るとは

- (1) 聖霊は、キリストの御霊です（ロマ8：9～10）。

- ① キリストが私たちのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、私たちの霊は、キリストの義によって、生きています。
- ② 祈るとき、私たちは、ありもしない自分の義ではなく、キリストの義を頼りにしましょう。そうすると私たちの霊が生かされ、神に祈ることができます。

- (2) 聖霊は、イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊です（ロマ8：11～14）

- ① 「イエスを死者の中からよみがえらせた方」とは、父なる神です。
- ② 父なる神は、私たちのうちに住んでおられる御霊によって、私たちの死ぬべきからだをも生かしてください。
- ③ 死んだ体をよみがえらせた神には、死ぬべきからだを生かすことは、もっと容易なことです。
- ④ 私たちのからだを生かしてくださるのは、神です。私たち自身の意欲や努力によるものではありません。

● 13節 「御霊によって、からだの行いを殺す」なら、私たちは「生きるのです」。

● 14節 「神の御霊に導かれる」人は、だれでも神の子どもです。

- ⑤ 私たちの死ぬべきからだを生かしていただく、具体的な方法は、ロマ12章で詳しく教えられます。今回のテーマからははずれますので、祈りの分野に限定して触れると、ロマ12：12 「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい」というキリストの律法を実行できるのは、この聖霊の助けによります。

- (3) 聖霊は、神の子としてくださる御霊です（ロマ8：15～30）

- ① 信者は、神の子となって、苦しみを受けます（15～18節）
- ② 被造物全体も、神の子どもたちの栄光に入るときが来ますが、今はともうめいています（19～24節）
- ③ 私たちも心の中でうめいていますが、この望みによって救われています（23～25節）
- ④ 御霊もうめきながら、私たちを助けてくださいます（26～28節）
- ⑤ 聖霊の働きのゴールは、信者を御子のかたちと同じ姿に変えることです（28～30節）

● IIコリ3：17～18

6. 結論（ローマ8：26～30、33～34）

- (1) 26～27節 御霊は、私たちの内にあって、とりなしてください。
- (2) 27～30節 神は、祈りを受けて、すべてのことを働かせて益としてくださいます。それは、神を愛する人々を御子のかたちと同じ姿にし、栄光を与えるためです。
- (3) 34節 キリスト・イエスは、神の右の座に着き、とりなしてください。

□第4のテーマ・・・「何を祈るか」

1. ダビデの祈りから

(1) 詩篇 5 : 1~12

- ① 私のうめきを聞き取ってください
- ② あなたの義によって私を導いてください
- ③ あなたに身を避ける者がみな喜びますように（御名を愛する者があなたを誇りますように）
- ④ 主よ。まことに、あなたは正しい者を祝福し、大盾で囲むように愛で彼を囲まれます。

(2) I 歴 14 : 9~10、13~15

- ① ペリシテ人を攻めに上るべきでしょうか
- ② 箴言 16 : 1 人は心に計画を持つ。主はその舌に答えをくださる
- ③ 「攻め上りますから勝たせてください」ではない。それは人の計画、神に結果だけを求める、誤った祈り

2. エペソ人への手紙から

(1) エペソ 3 : 14~20

- ① 私はひざをかがめて、天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります（14~15）
- ② どうか父が、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。こうしてキリストが、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように（16）
- ③ あなたがたがその上に立っている「愛」という基礎が、どれほどの広さ、長さ、高さ、深さがあるかを理解する力を持つようになりますように（17~18）
- ④ 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように（19）
- ⑤ こうしてあなたがたが、神ご自身の満ち満ちたさまにまで満たされますように（19）
- ⑥ 豊かに施すことのできる方に栄光がとこしえにありますように。
- ⑦ 父が私たちに豊かに施すのは、私たちが祈って求めたときです。
 - 私たちのうちに働く力によって
 - 私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて
- ⑧ 父に栄光が帰せられるのは、私たちが家族として父なる神に祈ったときです。
 - 教会により
 - キリスト・イエスにより（教会のかしら、神の子であり、聖徒たちの長子）
- ⑨ 兄弟姉妹との関係が、主にある家族として互いに愛し合い、赦し合うものであることが、私たちの祈りが実を結ぶうえでとても大切です。

(2) エペソ 6 : 18~24

- ① すべての祈りと願いを用いて・・・祈りなさい（6 : 18）
 - 祈りの内容に限定はありません。すべてのことが祈りと願いの対象になります。
- ② どんなときにも御霊によって祈りなさい（6 : 18）
 - 「御霊によって」とは、聖霊の助けによって祈ることです。
- ③ そのためには絶えず目をさましていて（6 : 18）

- 「絶えず目をさましていて」というのは、眠ってはならないということではありません。直訳すると、「祈った祈りと願いがどうなるのか、観察し続けなさい」ということです。
 - エペソ 5 : 8~20 光のこどもらしく歩む
 - エペソ 5 : 10 主に喜ばれることが何であるかを見分ける
 - エペソ 5 : 9 光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実
 - 祈りの内容に限定はありませんが、私たち自身がその内容を吟味して主に喜ばれるかどうか見分けることが大切です。それには時間がかかります。光が結ぶ実を見ていかねばならないからです。
- ④ すべての聖徒のために忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい (6 : 18)
- 祈りの生活に進んでいくと、自分のために祈るよりも、兄弟姉妹のために祈ることが多くなります
 - 兄弟姉妹のために祈るとき、必要なのは、忍耐、そして互いに赦し合う (4 : 32)、互いに従う (5 : 21)、互いに愛し合う (ロマ 12 : 10)、尊敬をもって互いに人を自分よりもまさっていると思う (ロマ 12 : 10) ことです。
- ⑤ また、私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるように、私のためにも祈ってください (6 : 19~20)
- 福音宣教においてみことばに仕えている奉仕者たちのために、祈ることも、重要な祈りの課題です。
- ⑥ あなたがたにも私の様子や、私が何をしているかなどを知っていただくために、・・・あなたがたが私たちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受けるためです (6 : 21~22)
- 兄弟姉妹の様子を知るとは、それによって主の恵みがどのように兄弟姉妹の上にあるかを知って、心に励ましを受けるためです。
 - お互いにそれを知らせ合うことは、互いに励まし合うことになります。祈りの内容もまた恵みに満ちたものとなっていきます。それが次の結語に表れています。
- ⑦ どうか、父なる神と主イエス・キリストから、平安と信仰に伴う愛とが兄弟たちの上にありますように。私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように (6 : 23~24)